

総合型選抜 2024 年度過去問題 看護学科

次の文、グラフ、表を読み、あとの問いに答えなさい。

厚生労働省は6月2日、2022年の日本人の人口動態統計（概数）を発表した。1人の女性が生涯に産む子どもの推計人数を示す「合計特殊出生率」は7年連続で低下し、1.26で過去最低となった。新型コロナウイルスの感染拡大期に婚姻数が減少したことが影響したとみられる。政府は児童手当の拡充など若者世代への経済支援を強化し、出生率反転につなげたい考えだ。

出生率は前年の確定値から0.05ポイント低下し、過去最低だった2005年を下回った。先進7か国（G7）の出生率は上昇傾向にある。2021年で比較すると、フランス1.84（暫定値）や米国1.66、ドイツ1.58を大きく下回っており、対策の遅れが浮き彫りとなっている。

都道府県別の出生率は、東京都の1.04が最低で、宮城県1.09、北海道1.12と続いた。一方、最も高かったのは沖縄県の1.70で、宮崎県1.63、鳥取県1.60の順だった。

1年間に生まれた子どもの数（出生数）は前年比4万875人減の77万747人となり、1899年の統計開始以降、初めて80万人を割り込んだ。出生数は7年連続で減少した。

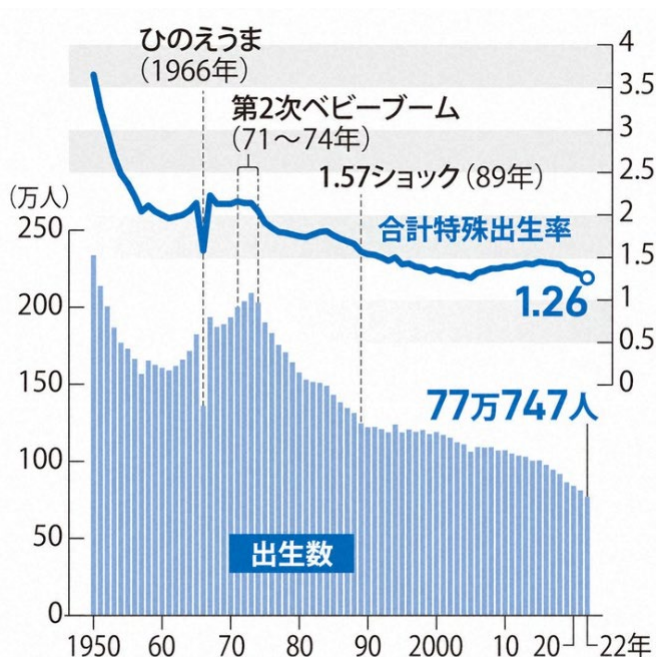
一方、死亡数は前年比12万9105人増の156万8961人で、過去最多を更新した。死亡数から出生数を引いた人口の自然減は79万8214人で過去最大の減少幅となった。

日本は婚姻がその後の出産に直結する傾向がある。婚姻件数は前年より3740組多い50万4878組で3年ぶりに増加したものの、コロナ禍前の2019年（59万9007組）との差は大きい。コロナ禍の経済停滞による将来不安が影響したとみられ、経済再生が急務となっている。

初婚の平均年齢は夫が31.1歳、妻が29.7歳でともに前年を上回った。第1子を出産した時点での女性の平均年齢は前年と同じ30.9歳と過去最高水準で、晩婚化・晩産化も進んでいる。

（出典：読売新聞より抜粋、2023年6月3日、「静かなる有事」出生率が過去最低1・26に...晩婚・晩産化とコロナ禍影響、文章の一部に変更を加えている）

グラフ：出生数、合計特殊出生率の推移



（出典：毎日新聞、2023年6月2日、出生率1.26、過去最低 出生数は80万人割れ 2022年人口動態、毎日新聞社）

表：2022 年の都道府県別の合計特殊出生率

都道府県	合計特殊 出生率	前年比	都道府県	合計特殊 出生率	前年比
北海道	1.12	-0.08	滋賀県	1.43	-0.03
青森県	1.24	-0.07	京都府	1.18	-0.04
岩手県	1.21	-0.09	大阪府	1.22	-0.05
宮城県	1.09	-0.06	兵庫県	1.31	-0.05
秋田県	1.18	-0.04	奈良県	1.25	-0.05
山形県	1.32	0	和歌山県	1.39	-0.04
福島県	1.27	-0.09	鳥取県	1.60	0.09
茨城県	1.27	-0.03	島根県	1.57	-0.05
栃木県	1.24	-0.07	岡山県	1.39	-0.06
群馬県	1.32	-0.03	広島県	1.40	-0.02
埼玉県	1.17	-0.05	山口県	1.47	-0.02
千葉県	1.18	-0.03	徳島県	1.42	-0.02
東京都	1.04	-0.04	香川県	1.45	-0.06
神奈川県	1.17	-0.05	愛媛県	1.39	-0.01
新潟県	1.27	-0.05	高知県	1.36	-0.09
富山県	1.46	0.04	福岡県	1.33	-0.04
石川県	1.38	0	佐賀県	1.53	-0.03
福井県	1.50	-0.07	長崎県	1.57	-0.03
山梨県	1.40	-0.03	熊本県	1.52	-0.07
長野県	1.43	-0.01	大分県	1.49	-0.05
岐阜県	1.36	-0.04	宮崎県	1.63	-0.01
静岡県	1.33	-0.03	鹿児島県	1.54	-0.11
愛知県	1.35	-0.06	沖縄県	1.70	-0.1
三重県	1.40	-0.03			

(出典：読売新聞,2023 年 6 月 3 日,「静かなる有事」出生率が過去最低 1・26 に...晩婚・晩産化とコロナ禍影響)

問 1 2020 年から 2021 年の人口の自然減は何人か計算しなさい。

問 2 日本の合計特殊出生率が低下している原因を自身の考えも含めて 300 字以内で述べなさい
(字数には句読点を含む)。

問 3 合計特殊出生率の減少を止める対策を考察し、500 字以内で述べなさい (字数には句読点を含む)。